# 御学校だより

２０２４年９月５日
藤沢市立御所見中学校
校　長　山田　大

## 今年も熱い！暑い！夏！～猛暑・部活動・戦後８０年～

今年の夏休みも昨年同様にとても暑い夏でした。昨年までの国内最高気温の記録は41.1℃（2018年熊谷、2020年浜松）でしたが、今年の８月５日に群馬県伊勢崎市で41.8℃を記録し、更新されました。私も昼間の外出は避け、一昨年度までほとんど使わなかったエアコンを一日中つけっぱなしにする日が多くありました。昔は季節の中で一番好きだった夏が一番嫌いになりました。

そんな中、部活動では暑さに負けず、熱い戦いを見せてくれました。湘南大会に出場した男子バレーボール部、女子バレーボール部、軟式野球部、湘南吹奏楽コンクールに出場した吹奏楽部、ゴム動力飛行体大会に出場した科学部、市内陸上大会に出場した陸上競技部の皆さんが躍動する姿に感動しました。残念ながら優勝したり、表彰されるところまで勝ち上がることはできませんでしたが、十分に実力を出し切った戦いぶりでした。

また、今年は終戦から８０年ということで、特集番組や太平洋戦争を扱ったドラマ・映画がたくさん放映されました。私も例年以上に戦争に関する番組を見て考えさせられました。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という格言があります。日本という国が戦争という手段をなぜ選んでしまったのか、なぜ国民の多くがそれを支持してしまったのか、違う方法はなかったのか、もっとはやく終わらせることはできなかったのか…。戦争を経験していない私たちですが、真剣に考え、学び、後世に伝え、受け継いでいくことが大切だと考えます。「自分も人も大切に」にして「対話」によって解決を図る。日常生活から実践しましょう。

【ゴム動力飛行体大会】

## うまくいかないのは誰のせい？～パラダイムシフトとインサイド・アウト～

７月18日（金）の全校集会での「校長の話（動画）」では、この夏、何か新しいことにチャレンジしよう！できれば「努力の上の辛抱という棒を立てて、そこに花が咲くような」体験をしてください。さらに、「すきなことがわからない」という絵本を朗読して、明確な目標が思いつかない人は、この本の主人公のように「とにかく、やってみよう！」の精神で、思いついたことや目の前のことに全力で取り組んでみましょう！という話をしました。

９月１日（月）の全校集会での「校長の話（動画）」では、「すきなことがわからない」で悩んでいた主人公が、悩みから抜け出した要因を次のように説明しました。「なんだかうまくいかないな」と思ったら、それをうまくいっている状況に変えるには、ものの見方（パラダイム）を変える（パラダイムシフト）しかないのです。人は苦しい状況に置かれたとき、環境やまわりの人を変えたいと考えてしまいます。しかし、周りの環境や相手を変えることは誰にもできません。周りを変えるたった一つの方法は、それは、まず、自分の内側から変わることだけなのです。つまり、自分の中でパラダイムシフトを起こして、環境や相手に影響を与えていくこと、これがインサイド・アウトです。

【すきなことがわからない　作：古内しんご　絵：つちおかももこ　三恵社】

絵本の主人公の少年は、ママを喜ばせようと勉強に励みますが、すきなこと「自分のやりたいこと」がわからなくなり、悩みます。そこで、パパに「すきなことは何？」と聞いたら「わからないな」という意外な答えが返ってきます。さらに、「わからないから、何でもやってみたんだ！」「遊びも、スポーツも、勉強も、お仕事も…」「好きなことがわからないおかげで、パパの人生は好きなことがどんどん増えていってるよ。」この言葉を聞いて主人公の少年にパラダイムシフトが起こります。

人の評価ばかり気にせず、興味のあることに、どんどんチャレンジすればいい！そう意識が変わった少年はママに「料理を教えて！」と頼み、少年が作った「へたっぴなオムライス」を家族３人が満面の笑顔で食べ、インサイド・アウトを実践します。

思い込みや自分の考えに固執せず、物事の見方を多面的・多角的に、考え方を柔軟によりよく変えることが大切なんですね。

「１３歳からわかる！７つの習慣～自分を変えるレッスン～」日本図書センターより引用

## 一生の宝物～結果より大切なもの～

中学時代には人生を左右する一瞬に出会えることがある。軟式野球部の湘南大会、2点リードされた最終回の攻撃、ツーアウトランナー1塁、ホームランなら同点、アウトなら試合終了という場面。カウントはスリーボールワンストライク、バットを振らずにフォアボールで出塁、という選択肢もある…。

次にピッチャーが投じた5球目、迷わずバットを思いっきり振り抜く！勢いよくはじかれた白球はグングンと伸び、真っ青な空に舞い上がり、レフト方向に飛んでいく。ホームラン！同点か！しかし、あらかじめ深く守っていた外野手が後退しながら捕球してゲームセット。

実は打つ直前にタイムがかかり、監督から「悔いのないスイングをしろ」という指示が出ていた。結果はアウトでも、打った感触、打球の軌跡、フルスイングを実行したことを一生忘れないだろう。

仮に結果が、打ちにいったけど「空振り三振」であろうと、手が出ず「見逃し三振」だとしても関係ない。自分で判断したことだから、思いっきり悔しがってから、「よしっ！今度こそは！」という気持ちで次に生かせばいい。

それが一生懸命に取り組んできたことなら、なおさらだ。成功体験も自分を成長されるけど、若いときに思いっきり悔しい思いをするのも悪くない。

彼はきっと、今後の人生で、また同じような場面に遭遇したとき、結果を恐れずに思い切ってチャレンジするのだろう。